

**NUIT
BLANCHE
KYOTO**
In Residence

**ニュイ・ブランシュKYOTO
in Residence**

京都市長・在京都フランス総領事
共同記者会見

2025年 9月9日（火） 15:00

京都市本庁舎

ニュイ・ブランシュKYOTO とは

京都市の姉妹都市であるパリ市で2002年に生まれた「ニュイ・ブランシュ」に着想を得た「ニュイ・ブランシュKYOTO」は、**2011年より**毎年秋に京都市と関西日仏学館が主催する現代アートの祭典です。

日本やフランスを始めとするアーティストによるパフォーマンスや展覧会など、多彩なプログラムを京都市内の複数の会場で実施します。

この祭典は、美術館やギャラリーの枠を超えて、現代アートに親しむ機会を無料で提供することを目的としています。

また、1958年に結ばれた**京都・パリ友情盟約**を記念する機会でもあります。

主催：京都市、関西日仏学館



ニュー・ブランシュKYOTO in Residence

2025年の開催概要

15回目を迎える本年は、「* * * in Residence Kyoto (アスタリスク・イン・レジデンス)」とのコラボレーションによる特別バージョン。

アーティスト・イン・レジデンスに焦点を当てた初の試みとして、公募で選出されたフランスのアーティストが約1ヶ月間京都に滞在し、創作活動の成果を発表します。

さらに、市内の個性的なレジデンス施設も一般公開され、多彩なプログラムを披露します。

開催日：9月27日(土)～10月4日(土) ※開催日時は会場により異なります
9月27日(土) スペシャルデー

入場無料 ※9/27以外は有料となる会場あり



会場：京都駅ビル駅前広場、関西日仏学館、ヴィラ九条山、HOSOO LOUNGE、堀川御池ギャラリー、西陣織旧工場(武田真彦邸)、マガザンキョウト、船岡山公園(STUDIO MONAKA)、京都コンサートホール、CLUB METRO、他

2025年の特徴

- ① テーマは「アーティスト・イン・レジデンス」： 5p
なぜ「イン・レジデンスなのか？」／17世紀まで遡るフランス政府の取り組み
- ② * * * in Residence Kyotoと初のコラボレーション： 6p
* * * in Residence Kyoto x NBK
- ③ 5組6名の招聘アーティストによる滞在制作： 7-20P

● 数字で見る今年のニュー・ブランシュKYOTO

- ・開催回数：第15回目（2011年の第1回より毎年開催）
- ・会場数：34会場
10会場（ニュー・ブランシュKYOTO）+24会場（* * * in Residence Kyoto）



① テーマは「アーティスト・イン・レジデンス」

なぜ「イン・レジデンス」なのか？

アーティスト・イン・レジデンスは、アーティストが特定の場所に一定の期間滞在し、その地域と関わりながら創作を行う仕組みです。これは、地域の文化に根ざした作品を作り、同時にその作品を来場者と共有することを目的としています。この形式はアートと社会のつながりを促進し、多様な来場者に触れ、地域の住民と関わりながら参加型の創作活動を生み出します。

京都市内には、古い町屋、ギャラリー、個性豊かな建築物等、ユニークな場所にアーティスト・イン・レジデンスが存在します。その活動は、京都の多様な創造性を育むとともに、伝統・文化遺産の再評価にも貢献しています。

17世紀まで遡るフランス政府の取り組み

フランスではルイ14世の時代より、優れた芸術家に「ローマ賞」を贈り、ローマのヴィラ・メディチスでの滞在を褒賞としていました。アーティスト・イン・レジデンスの始まりです。

フランスでは、アーティスト・イン・レジデンスを支援する政策が重要視され、文化外交の主要な柱ともなっています。

実際、フランスには国内外に数多くのレジデンスが存在し、中でも京都のヴィラ九条山はフランス人アーティストにとって特に魅力的な場の一つとなっています。

このほど、フランス政府は海外における公的なアーティスト・イン・レジデンスに関する憲章を定めました。



③ 5組6名の招聘アーティストによる滞在制作

ニュー・ブランシュKYOTO in Residenceでは、フランスに向けてアーティストを募集し、90件の応募の中から5組6名を選出しました。

招聘アーティストは京都市内のレジデンス等に約1ヶ月滞在し、制作を行います。

ニュー・ブランシュKYOTO 選出アーティスト

- セシル・ブルースト
- マグローヌ・ヴィダル
- ダニエルペシオ&おーなりりゅうじ



*** in Residence 選出アーティスト

- ジュール・ゴリアット
- ポール・ボンヌヴィル



Cécile Proust セシル・プルースト

ダンサー、振付家、研究者
1995年度ヴィラ九条山レジデント

セシル・プルーストは、フランス・ポワティエ出身のダンサー、振付家、研究者であり、フェミニズムやジェンダー、身体性に焦点を当てた革新的な作品で知られています。身体、ジェンダー、社会的規範に対する深い洞察と批評性を持ち、現代ダンスと社会的実践の融合を体現しています。

プルーストは、ブリュノ・ラトゥールが創設したパリ政治学院の「芸術と政治の学校 (SPEAP)」で修士号を取得し、芸術と社会、政治の関係性を理論的に探求しています。

また、パリ第8大学やフランス国立ダンスセンター (CND) で教鞭を執り、ダンスとフェミニズム、ジェンダー理論の交差に関する講義やワークショップを行っています。



映像&パフォーマンス「femmeuses en ville à Kyoto」

公共空間が男性によって男性のために構想されてきた一方で、女性達はそれについて考え、強い身体的経験を有します。
セシル・ブルーストとジャック・オブフネール(映像作家)による本作は、身体や動作、声、言葉によって空間を奪う女性たちを称えます。

9/27 16:00-22:00

パフォーマンス(各20分) 18:00、19:30、21:15

ビデオインスタレーションは9/27以降も実施

9/28、9/30-10/4 11:00-17:00

会場: 関西日仏学館

© Jacques Hoepffner



Daniel Pescio ダニエル・ペシオ

調香師・嗅覚アーティスト

ブラジル出身、パリを拠点に活動。

香りを通じて感覚や文化を探求し、伝統と革新を融合させた独自の作品を創り出しています。

ペシオは、フランス・ヴェルサイユの香水専門学校「ISIPCA(国際香水高等学院)」で学び、2006年にフランス調香師協会の会員となりました。

その後、シャネル、ディオール、トム フォード、プラダ、エルメスなどの名門ブランドで調香師としての経験を積みました。

2015年以降は独立し、自身の香水制作に取り組むとともに、世界各国で香水の教育やワークショップに携わっています。

香りを通じた感覚教育にも力を入れており、子どもから大人まで幅広い層に向けた体験型プログラムを展開。

日本を訪れた際、ペシオは香道に出会い、その静謐で深遠な香りの世界に魅了されました。2018年には名古屋の志野流香道松隠会に入門し、香道の理論と実践を学んでいます。

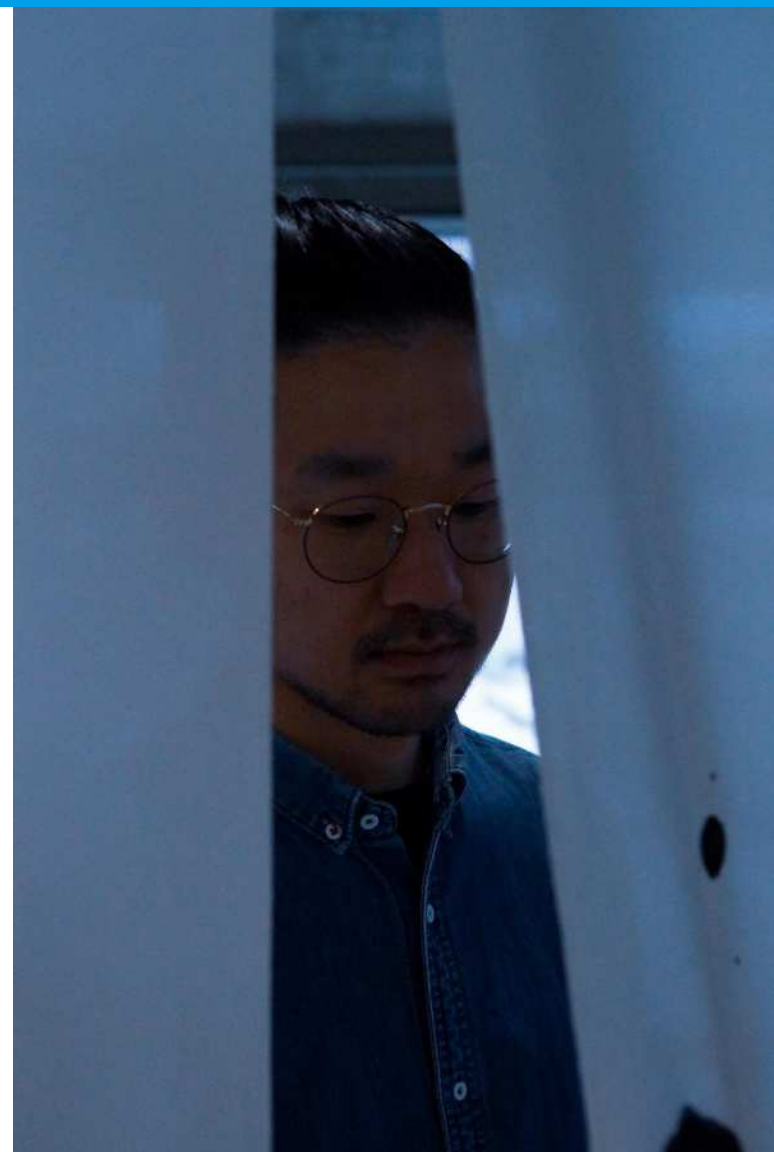


「The Rice Experience」 淡路島ei-toにて

Ryuji Onari おーなり りゅうじ

漆芸家

おーなりりゅうじは、造形のリサーチにおいて、自然と人工の間に存在する目に見えない相互作用への問いを投げかけます。
そして、日本の伝統的な漆を用いて、こうした出会いがもたらす化学的・人間的な反応を捉えるのです。



CONSTELLATION

五感すべてを呼び覚ます感覚的空間で、「CONSTELLATION(コンステレーション)」の体験は没入感を超えたものになります。
それは、香水とうるしの新しい融合によって生まれる、形を持つことのない、刹那のうたかたの儚さを顕在化します。

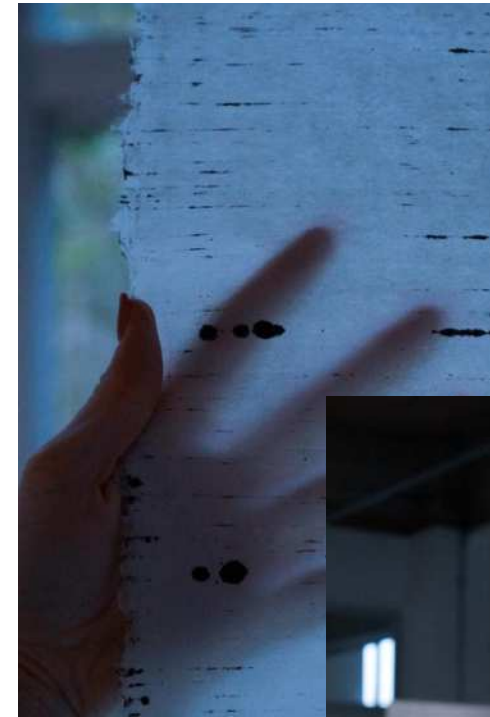
企画・制作:

ダニエル・ペシオ(調香師／2019年度ヴィラ九条山レジデント)&
おーなりりゅうじ(漆芸家)

9/27 18:00-20:00

9/28-10/4 10:30-18:00

会場:HOSOO LOUNGE



© Ryuji Onari



Maguelone Vidal マグローヌ・ヴィダル

作曲家、演出家、サクソフォン奏者、パフォーマー
2024年度ヴィラ九条山レジデント

マグローヌ・ヴィダルは、フランス・モンペリエを拠点に活動する作曲家、演出家、サクソフォン奏者、パフォーマーであり、音楽と身体、言語、空間との詩的かつ感覚的な関係性を探求する革新的なアーティストです。
ヴィダルはクラシックピアノと医学の両方を修了した後、サクソフォンに転向し、即興演奏や現代音楽に情熱を注ぎました。
彼女の作品は、音楽、演劇、ダンス、映像、料理など多様な要素を融合させ、観客に共感的な体験を提供することを目指しています。
そのアプローチは、身体と音の詩的で感覚的な関係を探求し、包摂的な舞台装置を通じて観客を音楽に対する新たなアプローチへと誘います。



マグローヌ・ヴィダル

書と音楽のパフォーマンス「吹かれた言葉」

書道の所作と呼吸の間の本質的なつながりにもとづいた「Fukareta Kotoba」は、息を原動力とした、音楽と造形芸術のハイブリッド・パフォーマンスです。独特の舞台装置と演出によって、観客は芸術的な相互作用のただ中に身を置くことになります。

マグローヌ・ヴィダル: 作曲、演出、バリトンサックス
上田 普: 書家
ヤニック・パジエ: パーカッション、音響

9/27 17:10、18:30、19:40(各50分)

会場: 堀川御池ギャラリー



© Visuel: Graphisme Nicolas Claveau /
Calligraphie Hiroshi Ueta /
Photos Valk - Sajik Kim

Paul Bonneville ポール・ボンヌヴィル

服飾・アクセサリーデザイナー

ポール・ボンヌヴィルは1999年にパリで生まれ、パリの国立高等装飾美術学校（École nationale supérieure des Arts Décoratifs）と文化学園大学を卒業しました。

在学中には、パリと東京を行き来しながら複数のスタジオで勤務しました。

「9738km」は、東京の風景に欠かせない7つの場所／服装をテーマにしたコレクションです。このコレクションは、都市デザイン研究会による『日本の都市空間』に描かれる都市空間の構成と同様に、一見すると統一感や明確な境界を欠いているように見えます。

しかし、東京の街を歩いてみると、最終的には必要なものがちゃんと現れてくれるのです——コンビニの裏手や、木造の寺院とコンクリートのビルのあいだなどに。



マガザンキョウト、西陣織旧工場(武田真彦邸)

マガザンキョウトは、「触って」「使って」「泊まって」「買える」、五感をフルに使って京都カルチャーを体験できる一棟貸しのホテルです。

“Life is Editorial.” 雑誌をつくるために必要な「編集」の力を「リアル」の場に表現し、宿泊、体験、展示、雑貨販売を行っています。ニュー・ブランシュKYOTO ではマガザンキョウトにてアーティストが滞在。西陣織の旧工場を制作場所、そして展覧会会場として活用します。



*** in
Residence
Kyoto



ポール・ボンヌヴィル展覧会

ポール・ボンヌヴィルは服飾・アクセサリーを手がける仏人デザイナー。
西陣の町の構造のリサーチをもとに、「*** in Residence Kyoto」のために製作されるエクスクルーシブなアイテムが「9738km」コレクションに加わり、かつての織物工場で発表されます。

※西陣織旧工場は要予約

会場：マガザンキョウト 9/27 13:00-21:00
9/28、10/3、10/4 13:00-19:00

会場：西陣織旧工場 9/27 13:00-18:00
(武田真彦邸) 9/28、9/30、10/2 13:00-17:00
9/29、10/1、10/3 10:00-13:00



Jules Goliath ジュール・ゴリアット

造形作家

ジュール・ゴリアットは、1996年生まれのパリ人アーティスト。

パリ近郊を拠点に活動しています。

彼の作品は、建築や時間、記憶、そして廃墟の美学をテーマに、コンクリートを主な素材として用いた彫刻やインスタレーションを展開しています。

物質と記憶、時間と空間の関係を深く掘り下げるものであり、現代社会における変化と記録のあり方について考えさせられるものです。

2015年：パリ国立高等美術学校(École des Beaux-Arts de Paris)に入学

2018-2019年：東京の武蔵野美術大学で交換留学を経験

2021年：パリ国立高等美術学校を卒業

2022年：パリ郊外のロマンヴィルに「スプリンクラー・アトリエ(Le Sprinkler)」を共同設立



En Accord (Journey capture)
Performative installation, 2023. Wooden carrying hurdle, traded objects



歩荷 Source: <https://ultrafootwear.jp>

船岡山公園 (STUDIO MONAKA)

京都市北区にある船岡山公園を拠点とし、地元の不動産会社とともにコミュニティづくりに取り組む建築事務所。

古代ギリシア都市国家で人びとが集い語らいあった広場を表す「アゴラ」と「船岡山」とをかけて、「FUNAGORA」というプロジェクトを進行中。

建築設計業務を行いながら、公園という場をひらき、多様な人びとが集い語らい楽しめるコモンズをつくろうと活動しています。



*** in
Residence
Kyoto



ジュール・ゴリアット展

造形作家ジュール・ゴリアットのプロジェクトは、日本での「ウォーキング・パフォーマンス」で、住民との物々交換を交えて行われます。
記憶や絆を求める旅を映像で記録し、インスタレーションとして発表します。

9/27 14:00-21:00 展示

9/27 18:00 パーティー

9/29-10/4 (12:00-17:00)

会場：船岡山公園(STUDIO MONAKA)



① 京都駅ビル 駅前広場

16:25-16:40 オープニングセレモニー

駐日フランス大使(予定)、竹内重貴(京都市副市長)、
下村あきら(京都市会議長)によるご挨拶



ニュー・ブランシュKYOTO 2024 オープニングセレモニー



テディ・サンチェスパフォーマンス(2022年)

グレゴアール・シャレール & ダリュス・ドラティアリ＝ドラドゥスト Grégoire Schaller & Darius Dolatyari-Dolatdoust

2025年度ヴィラ九条山レジデント

グレゴアール・シャレール 造形作家、演出家、研究員

1993年生まれ。2016年からダンス、パフォーマンス、造形芸術の垣根を超えたパフォーマンス・プロジェクトを展開。同プロジェクトでは、体操選手、マタドール、サテュロスのような身体の原型をモデルとしました。これらのプロジェクトを通して、シャレールは華やかさと妙技という概念、死と喪失との関係、理想体型の押し付け、マジョリティ側に属する人間が語る物語、といったテーマを問い続けています。



Grégoire



Darius

ダリュス・ドラティアリ＝ドラドゥスト 振付師、パフォーマー、造形作家

1994年シャンベリー出身。マルセイユとブリュッセルを拠点に活動。

École Duperré-HESAMでファッションデザインを修了後、ブリュッセル王立美術アカデミーのISAC(芸術・振付口頭研究所)でダンスを学びました。また、衣装そのものが動きを生み出すという、身体の動きを研究しています。衣装が持つ本質的な能力を引き出し、パフォーマーに見た目の変容、新たな動きの創造、自己発見の機会を与えるのが、ドラティアリ＝ドラドゥストの作品です。造形作家として、主にテキスタイルを媒介に、パッチワーク、絵、衣装、振付芸術のプロジェクトなどの表現活動を行っています。



FLAGS PARADES

https://youtu.be/fhZ_L8D6QPQ

パフォーマンス「FLAGS PARADE」

人類は消滅しようとすることができるのか？
不可能な仮説を想像する本作では、衣装によって身体を変容させます。
ハイブリッドな生物たちが互いを探し、愛の叫びの中で出会います。
出演は2025年度ヴィラ九条山レジデントのダリウス・ドラティアリ＝ドラドゥスト Darius Dolatyari-Dolatdoust (構想・衣装)&グレゴアール・シャレール Grégoire Schaller、東野祥子、小倉笑。

9/27 16:00-16:20

会場：京都駅ビル駅前広場

© Paul Rousseau



関西日仏学館

関西日仏学館は、フランス大使館文化部を本部とするフランス政府公式機関です。1927年の創設以来、フランス語教育と日仏文化交流に努めています。

大阪にも拠点を持ち、関西地域におけるフランス文化の発信地として親しまれています。

2009年より、館内にフランス総領事館が移転。
以降、総領事が館長を兼務しています。
2027年には創立100周年を迎えます。



映像&パフォーマンス「国破れて山河あり」

日本各地の人々のインタビュー映像と、能登半島地震に関する証言のライブ朗読を組み合わせた多声的なパフォーマンス。声、風景、人間の存在が交差する、私たちの時間の認識を探る芸術的な体験です。

企画：ヴァンサン・コレ Vincent Collet、あごうさとし

9/27 18:45、20:15（各30分）

会場：関西日仏学館



© Vincent Collet

茶室「水簾-スイレン-」

流れる水と風になびく簾をイメージした茶室空間。風を感じ、庭へと視界を広げその先にある『景色』と、気候・時間により異なる唯一無二のひとときを。

企画・制作：スペースデザインカレッジ学生一同 ※雨天の場合、茶席無し

9/27 16:00-20:00

9/28、10/4 12:00-17:00 9/27以外は茶席代有料(1000円)

会場：関西日仏学館



ヴィラ九条山

京都にあるアーティスト・イン・レジデンス施設「ヴィラ九条山」は、フランスのヨーロッパ・外務省の文化機関です。

アンスティチュ・フランセの支部の一つとして活動し、主要メセナのベタンクールシュエーラー財団とアンスティチュ・フランセパリ本部の支援を受けています。

ヴィラ九条山では、あらゆる分野の研究活動を行うアーティスト、職人、研究者を迎え入れています。滞在期間は4ヶ月から6ヶ月。

選ばれたレジデントには、自身の活動や研究に専念できる時間とスペースが与えられますが、滞在中に作品制作の義務はありません。

ヴィラ九条山はレジデントの研究活動を支援し、それぞれのプロジェクトに最適な関係者を結びつける役割を担います。

1992年の設立以来、450名以上のアーティストや職人を迎えました。



ニュー・ブランシュ x ヴィラ九条山

ヴィラ九条山の一般公開に、滞在アーティストが取り組む日本文化に
まつわる多彩な創作活動をご覧ください。
ぜひ足をお運びいただき、彼らの視点や作品に触れてみてください。

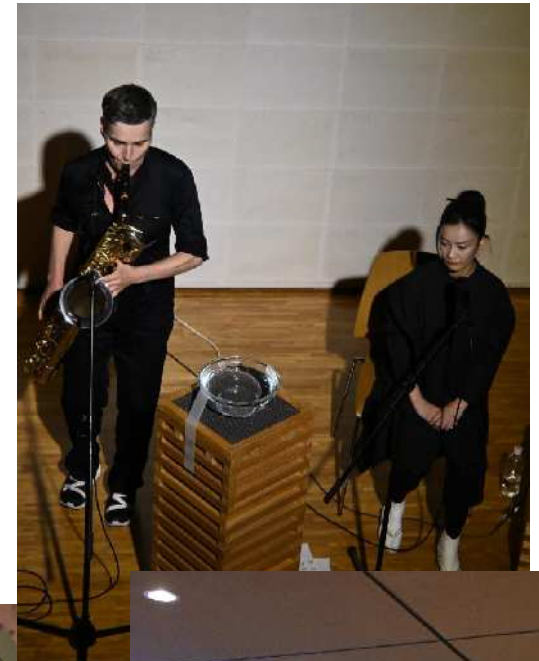
9/27 14:00-21:00

9/29、9/30、10/1、10/3 14:00-18:00

10/2 14:00-21:00 オープンデー

「毎月第一木曜日はヴィラ九条山へx NBK」

会場：ヴィラ九条山



ヴィラ九条山 2025年度下半期レジデント

Agathe Charnet
アガタ・シャルネ
演劇



Mona Oren
モナ・オレン
工芸



Grégoire Schaller & Darius
Dolatyari-Dolatdoust
グレゴアール・シャレール &
ダリウス・ドラティアリ＝ドラドゥスト
ダンス／パフォーマンス



Vincent Tuset-Anrès
ヴァンサン・トゥセ＝アンレス
デザイン

Mark Geffriaud
マーク・ジェフリオー
造形芸術



Théo Mouzard &
Marine Royer
テオ・ムザール &
マリーヌ・ロワイエ
建築／景観設計／都市計画



京都コンサートホール エントランスホール

想像x創造～imagination x creation

フランスと日本でアーティスト・イン・レジデンスとして活動した作曲家、そしてアーティスト・イン・レジデンスの起源ともいわれる「ローマ賞」にゆかりある作曲家に光をあて、クリエイターとしての姿に迫るコンサート。今年開館30周年を迎える京都コンサートホールを会場に実施します。

出演：徳永真一郎(ギター)／河村絢音(ヴァイオリン)／
佐藤 響(チェロ)／西岡沙樹(ピアノ)

9/27 20:00-20:50

会場：京都コンサートホール エントランスホール



NBK Rendez-vous!

ワークショップやトークでアーティストと出会おう！

●トーク 会場:京都芸術センター 参加無料

- ①9/28 13:30-14:45 「KACレジデンス派遣報告会」
- ②9/28 15:00-17:00 「クリエイターのキャリアにおける、国際的なアーティスト・イン・レジデンスの果たす役割とは？」

●ワークショップ、他 会場:関西日仏学館 参加費1000円(⑤を除く)

- ③9/30 18:30-20:30 「踊る身体」セシル・プルースト、ジャック・オプフネール
- ④10/1 18:30-20:00 トーク・実演「香りの魔法」ダニエル・ペシオ
- ⑤10/4 15:00-17:00 「うるしを感じてみる」おーなりりゅうじ 参加費4000円
- ⑥10/4 17:30-19:00 「息吹のアトリエ」マグローヌ・ヴィダル

●オープンデー 会場:ヴィラ九条山 参加無料

- ⑦10/2 14:00-21:00 毎月第一木曜日はヴィラ九条山へx NBK



*** in Residence Kyoto x NBK

*** in Residence Kyotoの個性的なレジデンスが
ニュー・ブランシュに参加します！

9/27にオープンデーを行う施設、及びニュー・ブランシュ開催
期間に展覧会等を行う施設があります。

- 1日限定のオープスタジオ (09/27)
- 1週間プログラム (9/27-10/4)



* * * in Residence Kyoto x NBK会場

河岸ホテル、京都 蔦屋書店、熊間(Kuma)、五条坂清水、すごすセンター、ノーガホテル 清水 京都、
(有)ひのでやエコライフ研究所・ゼロエネオフィス壬生、メトロポリタン福寿創、black cat day dream、BnA Alter
Museum、Bridge Studio、Caracois、FACE HOUSE KYOTO、FabCafe Kyoto、HOTEL SHE, KYOTO、KIKAgallery、
Long Slow Distance、Oboro、PERSPECTIVE Residence Fuu/風、STUDIO KAN、Share Office & House EVER、
soda、西陣織旧工場、マガザンキョウト、船岡山公園(STUDIO MONAKA)、SIGHTS KYOTO、共同書庫



詳細はこちら→



ニュー・ブランシュKYOTO in Residence

【主催】京都市、関西日仏学館 【共催】京都駅ビル開発株式会社、ヴィラ九条山、京都芸術センター
【協賛】DMG 森精機株式会社、笹川日仏財団、JR 西日本京都駅ビルグループ、東洋アルミニウム株式会社、
Sasagawa Consultancy、ヴァンケン ポメリー ジャパン、大日本印刷株式会社、HIDE、株式会社大林組、パリ・ポンピドゥー・
センター日本友の会 【特別後援】在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス 【後援】外務省、京都府、京都新聞、
読売新聞京都総局 【協力】キャノン株式会社、株式会社虎屋、KYOTO EXPERIMENT、一般社団法人J imagine
【プロデュース&コーディネーション】MUZ ART PRODUCE



お問い合わせ先

- ・京都市総合企画局国際都市共創推進室(国際担当) 電話:075-222-3072
- ・京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課 電話: 075-222-3119
- ・関西日仏学館(火曜-土曜) 電話: 075-761-2105

提携プログラム

KYOTO EXPERIMENT 2025

開催期間:10月4日(土)~26日(日)

国内外の「EXPERIMENT(エクスペリメント)= 実験」的な舞台芸術を紹介する京都発の国際舞台芸術祭。

今年は、松尾芭蕉の俳句から引いた「松茸や知らぬ木の葉のへばりつく」をキーワードに、フェスティバルを展開します。

主催:KYOTO EXPERIMENT <https://kyoto-ex.jp>

公式サイト



Instagram



素材ダウンロード先

